

# 音 楽

## (2) 実践例 2 (B 中学校)

### ア 開設までの手順

#### (ア) 第 2 学年における開設教科及び授業時数

教 科 名				教科数	授業時数
音 楽	美 術	保 健 体 育	技 術・家 庭	4 教科	週 2 時間

#### (イ) 第 3 学年における開設教科及び授業時数

群	教 科 名				教科数	授業時数
A 群	国 語	社 会	数 学	理 科	英 語	5 教科 週 1 時間
B 群	音 楽	美 術	保 体	技 術・家 庭		4 教科 週 2 時間

#### (ウ) 選択教科の設定の方法……教師サイドでのコースの設定

教科主任会で開設可能なコースを検討し、さらに、各教科部でも検討して設定した。

#### (エ) 設定コース

二 年	音 楽		美 術			保 健 体 育			技 術・家 庭	
	合 唱	器 楽	絵 画	彫 刻	工 芸	バレーボール	サッカー	バスケットボール	家庭生活	木材加工
三 年 A	国 語		社 会	数 学		理 科	英 語			
	探 究	言語演習	古典演習	ユニット選択式	基礎	発展	ユニット選択式	ユニット選択式	◎ A	◎ B
三 年 B	音 楽		美 術			保 健 体 育			技 術・家 庭	
	合 唱	器 楽	絵 画	彫 刻	工 芸	バレーボール	サッカー	バスケットボール	家庭生活	電 気

◎ A … International Cultural Studies      ◎ B … Communication Skills

#### (オ) 生徒に対する選択教科開設の説明会の持ち方・方法

##### a 選択教科開設の説明(学年集会) …… 2月27日(土)

- 教科のねらいについて説明し、しっかりとした考えで選択できるように配慮した。

〈ねらい〉 ・ 自分の個性を見極め、更に伸ばしていくのに適した教科の学習を深めるため

・ 将来の生活を考え実行するために、基礎・基本となる学習を深めるため

・ 常に自ら進んで学ぶ意欲を高め実践力を深めるため

##### b 選択教科開設のお知らせと希望調査 …… 2月27日(土)

##### c コースごとの人数集計と開設コースの検討 …… 3月3日(木)

##### d 選択教科コース決定 3月17日(木)

- 生徒の希望をもとに、人数調整が必要なコースは教師サイドで検討し、個人面談で調整した。(最終調整は新年度になってから実施)

##### e ガイダンス 4月12日(月)

##### f 実 施 2年選択 4月15日(木) 5～6校時

3年選択 B 4月16日(金) 5～6校時

3年選択 A 4月19日(月) 5校時

#### (カ) 選択教科の生徒希望調査と決定

選択教科コース開設希望調査は、第 2 希望まで記入し、教師の調整で決定した。

イ 第3学年選択教科「音楽」

(ア) 年間指導計画

導入、表現活動、発表会という大きな流れで指導計画（資料2）を考えた。また、ティームティーチングにより、支援がきめ細やかに行え、さらに、個の特性を見つけ伸ばしていくことができた。希望の活動ができるよう、話し合いでグループ編成をしたので、主体的で活発に活動できた。まとめとして、選択音楽学習発表会を行い、成果を相互に発表し、鑑賞し合った。同時に、ポスター等により、一般生徒にも参加を呼びかけた。多目的教室で実施したが、全校生の約半数に当たる250余人が鑑賞してくれたので、大いに活動の励みとなった。



資料2 選択教科「音楽」 年間指導計画

選択教科「音楽」 年間指導計画（第3学年）

時	題 材	目 標	学 習 内 容 活 動	生 徒 へ の 援 助	準 備 ・ 資 料	必 修 教 材 と の 関 連
1 2 3 4 5 6 7 8	ア ン サ ン ブ ル を 奏 し も う	<ul style="list-style-type: none"> <li>楽器の持つ音色や特色を生かしながら、楽器の基本的奏法を身に付けることができる。《器楽》</li> <li>正しい発声の仕方を理解しながら合唱することができる。《合唱》</li> <li>合唱やアンサンブルにむく興味をもち、慣れ親しむことにより、音楽活動の喜びを味わうことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>パートや楽器の決定をする。</li> <li>選曲をし、曲に合った形態や楽器の組み合わせを工夫する。</li> <li>楽器の音の出し方や吹き方等の基本的な奏法を練習する。</li> <li>正しい呼吸の仕方、共鳴のさせ方を練習し、お互いの響きを聴き合いながらハーモニーづくりをする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の特技や個性が生きるような楽器選択をするよう個別に助言する。</li> <li>同じ目的ごとの編成になるように助言する。</li> <li>選曲に当たっては、グループで相談して、心情に合った曲を選択し、個人の特性やバランスを考えてパート分け・楽器編成となるよう働きかける。</li> <li>全体の中で個が生かせる配慮のある選曲をするよう働きかける。</li> <li>アンプシャーや呼吸法、奏法ができていないかを、お互いに確認しながら、基本的奏法が身に付くよう支援する。</li> <li>呼吸法ができていないかを一人一人に確認させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>楽譜</li> <li>ピアノ</li> <li>鍵盤楽器</li> <li>電子楽器</li> <li>ギター</li> <li>木管楽器</li> <li>金管楽器</li> <li>打楽器</li> <li>和楽器</li> <li>CD</li> <li>持ち道具</li> <li>録音テープ</li> <li>自己評価カード</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>合唱の響き</li> <li>合唱の楽しさ</li> <li>明るく希望に満ちた表現や発声の仕方</li> <li>声部の役割</li> <li>吹奏楽</li> <li>いろいろなアンサンブルの楽しみ</li> </ul>
9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29	ア ン サ ン ブ ル を 奏 し も う	<ul style="list-style-type: none"> <li>曲にふさわしい表現活動を行うことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>パートの役割、各楽器の持つ役割や響きをとらえ、それぞれの役割や特徴を生かした表現の工夫をする。</li> <li>自分や他の人の声、音色に関心を持ち、お互いの響きを聴きながら演奏する。</li> <li>楽器の持つ役割を生かし、バランスやフレーズ、強弱等、曲にふさわしい表現を工夫する。</li> <li>歌詞の内容を味わい、言葉に表情を付けながら歌う。</li> <li>それぞれのパート、グループが気持ち一つにし、曲にふさわしい表現となるよう話し合いながら工夫していく。</li> <li>グループごとに録音をし、それを聴くことにより次の課題をつかみ活動する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>CDを聴き、楽譜の検討をして表現の参考にできるように助言する。</li> <li>余裕のある生徒には、独自に伴奏や副旋律を制作し、全体の響きに合うような楽器で表現するように助言する。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>うたづくり</li> <li>言葉と旋律・リズムを生かした表現</li> <li>まとまりのある旋律</li> </ul>
30 31 32 33 34 35	ア ン サ ン ブ ル を 奏 し も う	<ul style="list-style-type: none"> <li>今までの成果を発揮したグループコンサートをすることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>発表会をし、お互いの演奏を聴き合う。</li> <li>学習のまとめをする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>よい点を見付け、賞賛することによって、協力しながら音楽をつくりあげていく喜びを味わえるような雰囲気づくりをする。</li> <li>お互いに他のグループのよい所を認め合うことで、今後の活動への意欲付けをする。</li> <li>学習カードに授業を振り返っての反省や感想等を記入することで、自己の進歩や音楽活動の喜びを感じ取らせる。</li> </ul>		

# 音 楽

## (イ) 学習指導案

### 第3学年選択教科「音楽」学習指導案

本時の研究主題	選択教科「音楽」において、生徒一人一人が主体的に取り組むための合唱・アンサンブル指導の在り方
---------	--

#### 1 題 材 アンサンブルを楽しもう

#### 2 題材について

中学校の必修音楽では、選曲や使用楽器が限られがちである。しかし、生徒の中には「いろいろな曲（ポップス系統も含む）を演奏してみたい。」「いろいろな楽器を演奏してみたい。」と、より幅広く、また、より深い音楽活動を求めているものも多い。そこで、希望によって、合唱・アンサンブルのグループを編成し、それらの表現活動を通して、生徒の幅広く・より深くの欲求を満たし、更に向上心を高めたいと考え、本主題を設定した。

音楽を選択した生徒は30人で、6人は歌唱、24人は器楽が好きである。そして、アンサンブルをやりたいとの希望から、グループ編成をし、活動することにした。また、まとめとして、ミニコンサートを開くことにした。編成したグループは、合唱1、器楽5の計6グループとなった。アンサンブルでの使用楽器は、電子ギター、ドラムス、電子楽器、ピブラホーン、金管楽器、琴等と様々である。

お互いの特性を生かし、カバーし合いながら、また、グループの一人一人に明確な学習課題を持たせながら、意欲的に取り組ませたい。そして、協力することを通して音楽をつくり上げる楽しさを味わい、豊かな感性を育てていきたい。

#### 3 目 標

達成目標	評 価 の 観 点			
	音楽への関心・意欲・態度	音楽的な感受と表現の工夫	表現の技能	鑑賞の能力
・ 美しい音色に興味をもち、美しい音を出そうとする。	○		◎	
・ 曲想を感じ取り、曲にふさわしい表現を工夫することができる。	○	◎	○	◎
・ お互いのパートを聴き合い、その響きを味わうことができる。	○	○	○	◎
・ 合唱・合奏する喜びを味わい、楽しんで活動することができる。	◎		○	

#### 4 学習計画

時	学 習 内 容	
1～2	○オリエンテーション	グループごとの活動
3～8	○計画・立案 「合唱・アンサンブルの基礎練習をしよう」	
9	○オリエンテーション	グループごとの活動
10～29	○「アンサンブルを楽しもう」(本時第27時)	
30	○オリエンテーション	グループごとの活動 発表
31～34	「グループコンサートをしよう」	
35	○学習の反省とまとめ	

5 本時の指導

- (1) 目 標 協力して楽しく活動しながら、美しい音づくりをすることや曲の表現を工夫することができる。
- (2) 準備・資料 ピアノ、電子ギター、ドラムセット、電子楽器、金管楽器、琴、CD、ステレオ、テープレコーダー、楽譜、学習カード
- (3) 展 開

予想される活動・内容	生徒への援助・ <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">評価</span>
<p>1 本時の学習課題を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;">                     グループで協力しながら音づくりや表現の工夫をしよう。                 </div> <p>2 グループごとに分かれ練習をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>グループごとに前時の活動を振り返り、本時の目標を立て、カードに記入することで意欲付けをし、目標に向かって活動できるよう働きかける。</li> </ul>
<div style="text-align: center;"> <p>A 合唱グループ (マイ バラード)</p> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between; align-items: center;"> <div style="width: 15%;"> <p>F 琴グループ (さくらさくら・うさぎ)</p> </div> <div style="width: 60%; text-align: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">                         パート練習                          ・音程                          ・リズム                          ・音色                          ・奏法、歌い方                     </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">                         話し合い                     </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">                         合わせ練習                          ・曲想表現の工夫                          ・バランス                          ・音の響き                          ・テンポ                     </div> </div> <div style="width: 15%;"> <p>B (惑星より「木星」) 金管楽器グループ</p> <p>C (華麗なる円舞曲) ピアノ連弾グループ</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between; align-items: center; margin-top: 10px;"> <div style="width: 30%;"> <p>E 軽音楽グループII (YAH YAH YAH)</p> </div> <div style="width: 30%;"> <p>D 軽音楽グループI (エンドレス レイン)</p> </div> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>担当楽器の美しい音づくりができていられるかをお互いに聴き合いながら練習を進めるように助言する。(A・B・C)</li> <li>電子ギター、琴については練習を始めてから間もないので、基礎練習の時間も確保し、奏法が身に付くよう支援する。(D・E・F)</li> <li>よりよい表現となるよう、パート練習、合わせ練習、表現工夫の話し合いを繰り返しながら曲をつくり上げるよう助言する。</li> <li>必要に応じCD等を聴き、曲想表現の参考にするよう助言する。</li> <li>曲がまとまったグループの演奏は録音し、それを聴くことで、よりよい表現活動への意欲付けとする。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px; text-align: center;">                 協力して美しい音づくりや表現の工夫ができたか。(観察)             </div>
<p>3 本時の学習のまとめと反省をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>1～2グループの発表</li> <li>グループごとの話し合い</li> <li>学習カードへの記入</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1～2グループに発表してもらい、よかった点を賞賛し、お互いのグループの意欲付けとする。</li> <li>グループごとに本時の学習のよかった点、今後の課題について感想を出し合い、カードに記入して次の学習の手がかりにさせる。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px; text-align: center;">                 グループの目標を目指し、楽しく活動できたか。(観察・学習カード)             </div>

【授業の反省】

- 各グループとも意欲的に取り組めたのはよかった。
- 各グループごとに目標を決めて活動しているが、目標が漠然としていて、何を目標として練習するのははっきりしないグループもあった。練習をしていく過程の手順のようなものを生徒に提示し、積み重ね的な学習ができるようにしていきたい。
- 二人の教師で6グループの指導をしているが、把握が大変である。しかし、生徒一人一人の個を生かして活動させる一つの方法としては、このようなスタイルもいいのではないか。

【参観教師からの感想】

- 生徒が生き生きと活動していた。
- やはり、二人の教師で6グループをみるのは大変であるように見えた。しかし、個を生かした活動形態であるので、楽しく活動できている。
- 何人かは何となく活動しているように見えた。目標をもう少し明確にすれば、生きた活動になるのではないか。

# 音 楽

## (ウ) 評価計画表

選択教科名	音楽	配当時間	35時間
-------	----	------	------

(A：十分満足できる B：おおむね満足できる)

配当時間	観点別目標	器楽・合唱への関心・意欲・態度		自楽的な感受や表現の工夫		表現の技能		鑑賞の能力	
		A	B	A	B	A	B	A	B
8	<p>■楽器の持つ音色や特色を生かしながら、楽器の基本的な奏法を身に付けることができる。</p> <p>■基本的な発声の仕方を理解し、他のパートを聴きながら合唱することができる。</p>	<p>練習方法を工夫して、基本的な奏法を身に付けようとする。</p> <p>練習方法を工夫して、基本的な発声の仕方を身に付けようとする。</p>	<p>練習計画に沿って基本的な奏法を身に付けようとする。</p> <p>練習計画に沿って、基本的な発声の仕方を身に付けようとする。</p>	<p>楽器の持つ音色の特色を感じ取って、奏法の工夫をすることができる。</p> <p>よりよい発声の仕方をイメージして表現の工夫をすることができる。</p>	<p>楽器の持つ音色を感じ取って、奏法の工夫をすることができる。</p> <p>発声の仕方を工夫して表現することができる。</p>	<p>楽器の特徴を理解し、基本的な奏法ができる。</p> <p>合唱にふさわしい発声を行うことができる。</p>	<p>基本的な奏法ができる。</p> <p>発声に着目して歌うことができる。</p>	<p>楽器の音色の特徴を聴き分けることができる。</p> <p>自分の発声と合唱に適した発声を取り取ることができる。</p>	<p>楽器の音色の特徴を聴き取ることができる。</p> <p>自分の発声を聴き取ることができる。</p>
	<p>合唱や合奏に興味を持ち、慣れ親しむことにより、音楽活動の喜びを味わうことができる。</p>	<p>練習曲に積極的に取り組み、奏法や音色に関心を持ち、音楽を楽しもうとする。</p>	<p>進んで練習曲に取り組む、楽しく活動しようとする。</p>	<p>他のパートとのかわりを感じ取りながら、即興的に表現の工夫をすることができる。</p>	<p>他のパートとのかわりを感じ取りながら、表現の工夫をすることができる。</p>	<p>他のパートを聴きながら自分のパートを演奏することができる。</p>	<p>自分パートを演奏することができる。</p>	<p>自分の演奏が他のパートと溶け込み、音楽をつくる楽しさを聴き取ることができる。</p>	<p>自分の演奏と他のパートが音楽をつくることを聴き取ることができる。</p>
	<p>曲にふさわしい表現活動を行うことができる。</p>	<p>曲を自分の音楽としてまとめようとする。</p>	<p>音楽的に表現しようとする。</p>	<p>曲想を感じ取って表現の工夫をすることができる。</p>	<p>曲想を考えて表現の工夫をすることができる。</p>	<p>曲に合った音色を探し、工夫したことを表現することができる。</p>	<p>曲に合った音色を表現することができる。</p>	<p>曲の構成に着目し、特徴を理解して聴くことができる。</p>	<p>曲の構成に着目して聴くことができる。</p>
21	<p>合唱・合奏する喜びを味わい、よりよい表現を求め、楽しんで活動することができる。</p>	<p>演奏する喜びを味わい、よりよい表現を求めて演奏しようとする。</p>	<p>演奏する喜びを味わい、協力して演奏しようとする。</p>	<p>曲全体の曲想を考え、自分のパートの役割を理解して、パートに合った表現を工夫することができる。</p>	<p>自分のパートの役割を理解して、パートに合った表現を工夫することができる。</p>	<p>他のパートを聴きながら、自分のパートに合った表現をすることができる。</p>	<p>自分のパートに合った表現をすることができる。</p>	<p>範奏や他のグループのよさを聴き取って、自分たちの表現に生かすことができる。</p>	<p>範奏や他のグループのよさを聴き取ることができる。</p>
6	<p>今までの成果を発揮したグループコンサートをすることができる。</p>	<p>練習の成果をメンバーと協力し、自信を持って発表しようとする。</p>	<p>練習の成果を発表しようとする。</p>	<p>聴く人に音楽が伝わるように、即興的に表現を工夫することができる。</p>	<p>聴く人に音楽が伝わるように表現を工夫することができる。</p>	<p>自分の意図した音楽を表現することができる。</p>	<p>練習の成果を表現することができる。</p>	<p>表現の工夫に着目し、特徴を理解して聴くことができる。</p>	<p>表現の工夫に着目して聴くことができる。</p>

(エ) 評価補助簿

資料3は今年度使用した評価補助簿である。各評価項目の空欄は、学習内容により項目を追加できるように配慮した。○は器楽、●は歌唱の項目である。

資料3 評価補助簿

評価の観点	器楽・合唱・心・意欲・態度		音楽的な感受と表現の工夫		表現の技能		鑑賞の能力		評 定
	音楽を楽しむ、表現する喜びを味わおうとする。	自分のパートの役割を認識して、協力しながら演奏しようとする。	音楽の楽しさを共有し、表現の仕方を工夫することができる。	音楽の楽しさを共有し、表現の仕方を工夫することができる。	基本的な奏法（楽法）ができる。	他のパートの動きを聞きながら、自分もさわい演奏をすることができる。	楽器や声の音色の特徴を聞き取ることができる。	音楽の形を正確に聴くことができる。	
生徒氏名									
1									
2									
3									
4									
5									

(オ) 評価カード

選択音楽学習会 3年 組 番名 U.A.

7月9日~	曲にさわい表現を工夫しよう					
月 日	曲名 さくらさくら うさぎ					
評価項目	(1) 個人練習やグループ練習（話し合い）に積極的に取り組めた。	(2) 練習方法の工夫ができた。	(3) 楽器のフレズや曲調を生かす工夫ができた。	(4) 自分のパートの役割を認識しながら演奏できた。	(5) よい音（声）を生かして演奏できた。	今日の活動とあて
	月 日					<input checked="" type="checkbox"/> さくらさくらの曲を覚えていく <input checked="" type="checkbox"/> 「うさぎ」の構成を知り、全体を把握する <input checked="" type="checkbox"/> 「うさぎ」を合わせる <input checked="" type="checkbox"/> 「うさぎ」をマスターする。
						反省（よかったこと等）と次の授業の課題
7/9	○	○	○	△	△	だいたい曲が覚えてきた。次回はずき。(○)
7/16	◎	◎	○	○	○	回を重ねることになった。(○)
7/17	○	○	◎	○	○	ようやく曲を飛ばすようになった。(○)
7/18	△	○	○	△	○	音がひとつしかなかったの、ほかどうかな。(○)
7/18	○	○	○	○	◎	新しい曲に挑戦したい。(○)
/						
/						
感想・反省 孫は、全くはじめてだったので、まだまだわからなかったけど、たくさん練習して、チャレンジしてみたらよかったと思う。2学期も楽しくやっていきたい。先生から、球のよさがわかってきたようですね。がんばる。						

◎ とてもよい ○ よい △ いまいち × 努力を要する



